

豊明市議会議長 殿

行政等視察報告書

議員名 清水 義昭



平成29年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
平成30年 1月18日	大分県別府市	ともに生きる条例について
1月19日	山口県下関市	ふくふくこども館について

豊明市議事課

34.2.-9

分類 . . . 30.10.5.1

可・否・一部否・一時否

第84号受付

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

視察報告書

2018年02月09日

豊明市議会議員 清水 義昭

題目：清澄会派視察

日付：2018年01月18日

場所：大分県別府市

項目：ともに生きる条例について

概要

障がいの有無に関わらず誰もが安心して安全に暮らせる社会、共生社会を実現するためともに生きる条例を制定し施行した。

詳細

昭和48年度から50年度まで「身体障害者福祉モデル都市」として指定を受け、平成4年から6年度までは「住みよい福祉のまちづくり」の指定を受けるなど、障害福祉先進地として歩んでおり、市内には障がい関係の施設や病院などが多くある。

条例制定を目指したのは、民間団体からの働きかけが関係している。平成22年当時、障がい当事者、障がい福祉事業所関係者、弁護士、大学教員などで構成される「誰もが安心して安全に暮らせる別府市条例をつくる会」という組織が存在しており、大分県及び県内各市町村において差別禁止を明記する条例を制定することを目的として啓発活動を行うとともに、各自治体に条例制定の働きかけを行っていた。別府市に対しても条例制定の打診があり、これに当時の市長が呼応したことで、条例制定の動きが始まった。

平成23年8月に市民に対する意見募集をスタートさせた後、障がい当事者の部会員を含む別府市障害者自立支援協議会条例制定作業部会における骨格づくり、条例制定庁内検討委員会でのパブリックコメントやタウンミーティングを含めた条例素案づくり、議会での審議、所管事務調査などを経て、平成25年9月議会において条例案の可決を受け、制定された。意見募集より制定まで約2年を要した。

課題は、広く市民に周知されていない点や、この条例に基づく予算の確保が十分できていない点。

感想

多様性を認め合いお互いを尊重する社会を目指す自治体の仕組みや取組みが良く理解できた。難しい課題ではあるが、LGBTともに生きる宣言を行っている本市においても、理解が進みそうな時期を見定めたいうえで提案していきたい。

視察報告書

2018年02月09日

豊明市議会議員 清水 義昭

題目：清澄会派視察

日付：2018年01月19日

場所：山口県下関市

項目：ふくふくこども館について

概要

「ふくふくこども館」と名付けられた次世代育成支援拠点施設を開設し、子どもの健全な育成と子育てをしている家庭の支援を図っている。

詳細

JR下関駅にぎわいプロジェクトにおいて、新たに建設する駅ビル内の3階フロアおよび屋上を借り上げ、子育て親子の居場所として、未就学児に対し、それぞれ発達段階に適した、家庭ではできない様々な遊び・学びの場を提供することとした。

名称は公募により、魚のフグ、福祉の福にちなんだ「ふくふくこども館」とし、次世代育成支援拠点施設として平成26年4月に供用を開始した。

フロアには、就学前の子どもたちと保護者のための楽しい遊び場である「プレイランド」、子どもから大人まで気軽に集える「交流スペース・クリエイティブランド」、様々なプログラムを実施するほか、有料貸室としても利用できる「多目的室」、3時間以内に限り専任保育士が有料で子どもを預かる「こども一時預かり室」、さらに子どもや子育てに関する相談を随時受け付ける「相談室」がある。屋上は、ウッドデッキステージや人工芝広場があり、いろいろなイベントが行えるようになっている。

平成28年度の来館者は約18万人。うち市外から約30%が訪れているが、県外からの来訪者も少なくはない。同年度の一時預かりは計約千人。駅ビル内での買い物や映画鑑賞などでの利用が多く、保護者が子育てから少しの時間離れ、ゆとりをつくることができている。

指定管理で運営しているため経費の多くが人件費であり、必要なスタッフの人数も多く、賃金を低く設定しなければ運営できないことが課題。

感想

子育て世代の保護者がゆとりを得るためには、こういった施設は非常にありがたいと感じた。自治体から持ち出す費用が必要なため、提案を検討するには、施策の優先順位や、国、県からの補助の有無など、状況を見極める必要がある。